

第 23 回国際霊長類学会大会 募金のお願い

ご 挨拶

霊長類とは万物の霊長という意味で、人間を含むサル仲間と与えられた分類名です。そこには、自然界の頂点に立つ人間という自負や誇りが満ちています。でもそれを誇張しすぎたために、人間は地球環境を大きく破壊し、自らの生存を危うくするような時代を迎えています。霊長類学は人間が他の動物たちと同じ生物学的な基礎をもち、その上で独自の進化を遂げたことを明らかにしようとしてきました。現在、地球上には約 300 種の霊長類が暮らしており、人類はそれらの霊長類と同じ進化の時間を歩んできた仲間なのです。それぞれの種は進化の過程で独特な特徴を身につけており、それらの特徴を比べることによって霊長類が環境の変化にどのように適応してきたかを知ることができます。そして、それは私たち人間の過去の姿を知る上で重要なヒントを与えてくれるのです。

霊長類は地球の心臓とも言うべき熱帯雨林の申し子です。熱帯雨林は彼らにかけがえのない住処を提供してくれるとともに、霊長類も熱帯雨林の維持再生に貢献してきました。多くの木々がサルや類人猿たちに種子を散布してもらっているのがそのいい例です。熱帯雨林の生物多様性の維持に霊長類は重要な働きをしているのです。ところが、こうした熱帯雨林の多くは発展途上国にあるため、あちこちで伐採の対象にされ、多くの霊長類が絶滅の危機に瀕しています。

霊長類が生息しない欧米諸国と違い、日本は先進国でありながらサルが生息する国として独特な文化を育んできました。ニホンザルは神の使いとして尊ばれる一方で、漢方の材料やサル回しの主役として社会に定着してきました。わが国では、人間と動物とが連続した存在として寓話や昔話に登場します。霊長類学はこうした日本の文化的背景のもとで、野生のサルたちの一頭一頭に名前をつけ、その行動をつぶさに観察し記録することによって起こった学問です。

今回、日本で開催する国際霊長類学会大会では、日本霊長類学の考え方を再認識し、野生動物を管理するという発想だけではとらえきれない多様な視点や発想で「霊長類とヒトの共存」を討論していこうと思います。また、日本霊長類学の独創的な発想による「動物の社会」をさまざまな立場から論じ、私たち自身の社会を再考していこうと企画しています。世界の各地では人為的圧力によって多くの生物が絶滅の危機に瀕し、私たち人間も多様な暴力や紛争によって苦しんでいます。これらの問題を解決し、人間と自然の豊かな共存の道を探るために、今回の大会はまたとないいい機会であると思っております。霊長類学発祥の地である日本として、これらの機会を提供できることに大きな誇りと責任を感じております。

ぜひともこの趣旨にご賛同いただき、多くの方々から広く寄附金を賜りたく、お願い申し上げます。

2009 年 7 月吉日

第 23 回国際霊長類学会大会

募金委員会委員長 伊谷 原一

運営委員長 山極 寿一

寄付金募集要項

募金の名称： 第 23 回国際霊長類学会大会

募 金 目 標 額： 1,500 万円

募 金 期 間： 自：2009 年 7 月 15 日 至：2010 年 9 月 10 日

寄附金の使途： 第 23 回国際霊長類学会大会の準備および運営の費用にあてられます。

募 金 の 種 類： 個人： 1 口 5,000 円 法人・企業： 1 口 10,000 円

口数は任意です。また、任意の金額もお受けいたしますので、ご協力お願いいたします。なお、ご寄附いただいた方のお名前を本会議ホームページ（連絡先参照）にてご紹介させていただくことがあります。

寄附金申し込み先：

独立行政法人 国際観光振興機構 コンベンション誘致部 交付金担当

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 10 階

電話：03-3216-2905 ファックス：03-3216-1978

寄附金の払い込み方法：

別紙のフローチャートの通りとなります。別紙寄附金申込書を上記申し込み先にご送付いただき、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を受領後、指定口座番号にお振込みください。

フローチャート、寄附金申込書は下記 URL のページをお開きいただき、ダウンロードしてください

ダウンロード先URL : <http://www.ips2010.jp/public/contribution2.pdf>

URL からリンクできない場合は、URL をコピーいただきブラウザで開いてダウンロードしてください

税法上の扱い：

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として税法上の一般寄附金とは別途に損金算入などの優遇措置が講ぜられます。

寄附を必要とする理由

国際学術大会の開催には、招待講演者の旅費、滞在費、発展途上国から参加する若手研究者に対する支援など多額の費用が必要になります。霊長類のほとんどの種はアジア、アフリカ、中南米の熱帯雨林に生息しており、これらの国々は発展途上にあるため自力で研究者を派遣できない状況にあります。また、最近の円高によって日本への渡航費や滞在費を工面するのがますます困難になりつつあります。

第 23 回国際霊長類学会大会には海外から 400 名、国内から 300 名の参加が予定され、準備運営等に関する総経費は 4,659 万円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建前ですが、発展途上国や国内外の若手研究者に多くの負担を期待できません。将来を囑望されるこれらの若手研究者の渡航費、滞在費、登録費を軽減し、さらに大会関連の印刷物を刊行することを考えますと非常に厳しい予算環境になります。このため、総予算（4,659 万円）に対して、参加費等自己負担額 2,359 万円、日本学術会議との共同開催による国費 800 万円（金額未定）をあてても、なお 1,500 万円が不足してしまいます。

国際的な金融不況のなか、大変恐縮に存じますが、本大会が多大な成果をあげるため、ぜひご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。